

日本臨床検査医学会 2014 年度 第 4 回理事会 議事録

日 時：2014 年 12 月 27 日（土）12：00～15：45

場 所：日本臨床検査医学会事務所

議事録署名人：佐守友博 理事、杉浦哲朗 理事

出席者：村田 満理事長，前川真人副理事長，山田俊幸総務理事，諏訪部章会計理事，
佐守友博，小柴賢洋，藤田清貴，横田浩充，東條尚子，野島孝之，
清水 力，本田孝行，清島 満，杉浦哲朗，各理事
高木 康，尾崎由基男 各監事（以上 16 名）

欠席者：米山彰子庶務理事、安東由喜雄、北島 勲、賀来満夫、一山 智、康 東天 各理事（6 名）

I 会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、佐守友博理事、杉浦哲朗理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の 2014～2015 年度の支部総会・例会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（藤田清貴 担当理事）

学術集会で平成 24-25 年度学術推進プロジェクト研究の最終報告会を行い、今後、研究成果報告として臨床病理へ投稿を行ってもらうこと、まとめ、感想、顔写真を学会 HP へ掲載すること、平成 26-27 年度学術推進プロジェクト研究課題の確認及び今後の委員会活動について確認ならびに検討を行ったことが報告された。

2) 編集委員会（横田浩充 担当理事）

COI 委員会細則案と編集委員会で作成した COI 報告書の整合性の確認をし、提出方法等について確認を行うこと、1 社より臨床病理誌に掲載された原著論文全文を他言語に翻訳し転載したいという依頼があり、表題に臨床病理誌からの翻訳転載（二次出版）であること、会誌名、ページ数を記載することを条件に許可したこと、トピックスの掲載予定、オンラインジャーナル、WEB 版の英文誌作成、和文オンライン版について委員会の WG で検討予定であることが報告された。

3) 教育委員会（山田俊幸 委員長）

新専門医制度に向けて現行の卒後研修カリキュラムを改訂中であり、2014 年 4 月に理事会で承認された「研修プログラム各論」を見直しカリキュラムの形に改変すること、新カリキュラムでは、基本科目を、1. 臨床検査医学総論（管理学、検査統計学を含む）、2. 一般臨床検査学・臨床化学、3. 臨床血液学、4. 臨床微生物学、5. 臨床免疫学（輸血学を含む）、6. 遺伝子関連検査学、7. 臨床生理学としたこと、新制度による専門医更新における学習要件、「臨床検査の進歩を学ぶ教育的講演もしくはシンポジウム」の第 62 回学術集会での開催を目指し素案の作成にとりかかったこと、また、2015 年度は初学者（検査技師含む）用と専門医レベル用の 2 本立てでの RCPC を開催する方向であり、学術集会で 1 会場を 1 日教育委員会企画用に変更できるよう第 62 回学術集会長に依頼したこと、第 3 回目となる「臨床検査を学ぶ若手の会」（11/23）を開催し 13 名（うち学生 3 名）の若手医師の参加があったことが報告された。

4) 臨床検査点数委員会（東條尚子 委員長）

平成 28 年度診療報酬改定提案項目について、評議員からのアンケート調査集計（43 項目）、臨床検査振興協議会医療政策委員会からの要望（55 項目）を、委員会（日本臨床検査専門医会保険点数委員会との合同開催）で審議し、当会からは 47 項目、日本臨床検査専門医会からは 29 項目を内保連に第一次提案書として提出したことが報告された。

5) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

TSH 測定値の標準化が必要である背景、IFCC での甲状腺機能検査の標準化の進捗状況について確認し、TSH 測定値の標準化の研究計画について検討したこと、村上正巳先生に委員として参加を依頼することが報告された。

6) 精度管理委員会（前川真人 委員長）

2014 年度 CAP サーベイ経過状況について、2014 年度 CAP 国際臨床検査成績評価プログラム(CAP サーベイ)登録参加施設は 119 施設、遺伝子関連サーベイ参加施設は 12 施設、2015 年度 CAP サーベイ案内の内容確認、新規項目の選定を行っていること、IVD グローバルニュース内容の更なる充実を目的に「読者アンケート」を実施したことが報告された。

7) 倫理委員会（諏訪部章 担当理事）

臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用についての見解（改定 2010 年）の運用について、4 月に全国検査部長・技師長会議参加施設を対象としたアンケート調査を行い、学術集会初日の全国検査部長・技師長会議で調査結果を発表した。問題点は、見解は、認知・運用されているが、検体の外部持ち出しや同意取得過程に問題があること、研究と業務の区分が不明瞭であること、施設倫理委員会対応に苦慮することなどがあるため、対応例を検討し、次期学術集会で、臨床検査を終了した検体の取扱いをテーマとしたシンポジウム開催を検討することが報告された。

8) 利益相反委員会（諏訪部章 担当理事）

医学研究の利益相反（COI）に関する細則案の検討を行い、当会刊行物で発表する際の申告の対象期間は過去 2 年とし、対象者は会員、非会員を問わず著者全員と配偶者、一親等の親族も含めること、役員、委員会委員就任時に提出された自己申告書のチェックは問題の指摘、疑義があった場合に行うこと、学術集会等での発表、論文投稿時は、原則、発表者や著者は、個別に自己申告書を作成し、筆頭者あるいは Corresponding author がまとめて提出することとした。今後は、Q&A を作成する予定である。なお、2015 年 1 月から運用を開始する予定である。

9) 検査項目コード委員会（佐守友博 担当理事）

JLAC10 コードの新設状況、外保連生体検査コーディング WG の進捗状況、運用協議会運用事列表と PMDA 提供の JLAC10 コードの相違点、JLAC11 討議内容について報告された。

10) 広報委員会（佐守友博 担当理事）

HP 改訂のため、各委員会にアンケート調査予定であることが報告された。

11) 遺伝子委員会（横田浩充 担当理事）

遺伝子関連検査の外部精度調査、遺伝子関連検査の動向と課題、LDT と IVD の共存時代の遺伝子関連検査の品質確保に向けた考え方、電離放射線被ばくの生物学的線量評価（バイオドシメトリー）の手法ならびに浸透について報告された。

12) 国際委員会（北島 勲 担当理事 欠席のため 山田俊幸 総務理事）

国際学会奨励賞に関する規定ならびに応募申請書の改定案を理事会に提示予定であること、国内での会議と国際会議開催が重複しないよう、国際学会の開催情報を速やかに会員に周知し、若い会員の国際会議への参加を促していくことが報告された。

13) 医療安全委員会（小柴賢洋 担当理事）

第 61 回学術集会での医療安全シンポジウム（臨床検査専門医更新での必須単位のリスクマネジメントに関する講習会）はテーマ「臨床検査におけるチーム医療と果たす役割」で開催したこと、第 62 回学術集会でのシンポジウムは、医療安全教育テーマ「医療安全の基本に立ち返る」で企画することが報告された。また、北海道支部からの委員が退会により辞任したため、北海道支部長に後任委員推薦の依頼がなされた。

14) 会則改定委員会（米山彰子 担当理事 欠席のため 山田俊幸 総務理事）

各種委員会細則・規定・内規、支部規約、COI に関する細則について、内容確認していくことが報告された。

15) チーム医療委員会（諏訪部章 委員長）

第 61 回学術集会でのシンポジウムは、「医療従事者間のコラボレーション」で看護師、薬剤師、管理栄養士間のためであったので、第 62 回学術集会では、診療放射線技師、MSW(メディカル・ソーシャル・ワーカー)、臨床工学技士（特に臨床検査技師とのダブルライセンス取得者）、聴覚士と広げて招き、チーム医療の議論を深める予定であること、日臨技のチーム医療担当理事を委員として追加する予定であることが報告された。

16) 学術集会あり方委員会（村田 満 担当理事）

前回理事会（10/18）に提示した答申書（案）への、理事からの地方開催の意義に関する意見、会長招宴を学会行事にしないことに対する異議について再検討し修正を加えた答申書（案）を作成したことが報告された。

17) 女性支援 WG（山田俊幸 担当理事）

当会は女性会員比率が多いため、本 WG では、女性が活動しやすい環境を提供することにより、学会の活性化、臨床検査医学の発展を目的とし、そのため、まず会員にアンケート調査を行うこと、学術集会時の「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」を教育委員会と共催すること、学術集会での託児所設置状況について報告された。

学術集会での託児所設置については、第 62 回学術集会でも検討するが、その費用は利用者は負担をするのか無償とするのか議論され、第 60 回の例、アンケート調査結果により、本 WG で検討し提案することとなった。

18) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事）

①臨床検査ガイドライン 2015 年度版作成に向けた全体の章立てを行い、全体構成は変更せず、「検査値アプローチ」、「疾患」の項目を充実させる。各分野の担当者を決定した。入稿締切は 2015 年 4 月 30 日、査読終了を 2015 年 6 月末として 2015 年 10 月刊行予定とした。

②執筆者原稿料について、経費軽減のため原稿料を定額ではなく印税での支払いにする提案があったが、従来通り定額とする。

③配布・公開については、費用軽減のため配布先は主な関連する機関とし、会員は WEB で閲覧自由とする案が出されたが、委員会としては広く知ってもらうため、前 2 回と同様に会員全員に配布することを要望したい。

本件については、理事会で、臨床検査振興協議会からポケット版作成での原稿料と著作権料として約 300 万円を受けることで会員への配布が実施できている側面があるため、この額が本当に妥当であるのかを再検証すべきであること、会員は無償配布ではなく特別頒布価格で販売するのが適切ではないかとなり、委員会、常任理事会、理事会で再検討することとなった。

④臨床検査のガイドライン 2012 年版以後、図表の転載許諾依頼が複数あり許可していることについて、教育、公益事業など非営利目的使用に関しては問題ないが、パンフレットや HP などの企業広報目的や販売される出版物などの営利目的と考えられる場合は、他学会のガイドライン引用においても有償とする傾向があるため、当会としても、他学会等と同じように有償とする方向として、申請書、料金等については、委員会に策定を依頼した。

⑤委員が転載されている出版物の執筆者や編集員になっている場合は、COI に関与する可能性があることが指摘されたが、問題がある場合には、細則のとおり、利益相反委員会において自己申告書で確認することで対応することとした。

19) 臨床検査室医療評価委員会（東條尚子 担当理事）

経営面、臨床支援体制、学問的支援、検査態勢の 4 つの項目に分け、検査室の立ち位置が分かる内容のアンケートを作成予定であることが報告された。

3. 第 61 回学術集会報告（福岡 2014/11/22(土)～11/25(火)）（康 東天 会長 欠席のため 山田俊幸 総務理事）

2014 年 11 月 22 日(土)～25 日(火)に福岡国際会議場において開催した第 61 回学術集会について、福臨技との共催シンポジウム参加者を含めると 2000 名を超える参加者があったことが報告され、多くの方の協力に感謝の言葉があった。

4. 第 62 回学術集会報告（岐阜 2015/11/19(木)～11/22(日)）（清島 満 会長）

2015 年 11 月 19 日(木)～22 日(日)に長良川国際会議場、岐阜都ホテルにおいて、テーマ「臨床検査の発展～豊かな医療への懸け橋」で開催予定であり、一般 1 万円、大学院生 5 千円、学生は無料の参加費とすること、本部事務局と運営事務局について報告された。

5. 第 63 回学術集会報告（神戸 2016/9/1(木)～9/4(日)）（小柴賢洋 会長）

2016 年 9 月 1 日(木)～4 日(日)に神戸国際会議場において、第 32 回 IFBLS 国際学会、日本医学検査学会学術集会、兵臨技と同時期開催予定であるが、9 月 2 日(金)に第 32 回 IFBLS 国際学会の 3 学会合同式典を行うこととなり、その際には秋篠宮ご夫妻ご臨席の予定であることが報告された。

6. 第 10 回特別例会報告（京都 2015/4/13(月)）（山田俊幸 総務理事）

2015 年 4 月 13 日(月)にグランドプリンスホテル京都において、第 29 回日本医学会総会 2015 関西の分科会として、熊谷俊一会長（神戸大 名誉教授）のもと開催予定であり、プログラム、シンポジウム、ランチョンセミナーの司会、演題、演者等が報告された。

7. 当会からの派遣委員推薦について（村田 満 理事長）

前回理事会 10 月 18 日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

- 1) 平成 27 年同学院理事として宮地勇人先生、メ谷直人先生、前川真人先生、監事として村田満先生を推薦。
- 2) 臨床検査振興協議会在宅医療における臨床検査に関する WG メンバーとして小谷和彦先生(自治医大)を推薦。
- 3) 大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会専門委員・機関別認証評価委員会専門委員 候補者として北島勲先生（国立大学教育研究評価委員会・機関別認証評価委員会専門委員候補）、渡邊卓先生（機関別認証評価委員会専門委員候補）を推薦、ただし必ずしも委員として選出されるとは限らないことが申し添えられた。

8. その他

1) IVD「臨床検査室グローバルニュース」について（村田 満 理事長）

10 月 18 日の理事会で「利益相反委員会からの編料(監修料)と送料等の実費を徴収することで同封可とするが、1 社のみに便宜を図っていると受け取られるため、他にも同封の要望があった場合、理事会もしくは理事会が指名した該当する委員会の監修を受け承認された場合にのみ同封を認めるとなり、それを周知するため、臨床病理誌に掲載することが決定し、編集委員会に依頼されたことについての確認がされた。現時点は掲載されていないが文言を検討後に掲載することを確認した。

2) 学会誌への同封を公募することについて（諏訪部章 会計理事）

冊子等を同封することについては、学会誌に同封することには反対との意見があったが、理事会もしくは理事会が指名した該当する委員会の監修を受け承認された場合に限り実施することで承認された。費用については、実費の手数料と学会誌送料の追加分とする案が出され、監修料などを設けるかどうかは、その都度検討することとなった。

III 審議事項

1. 各種委員会委員の一部追加、変更、退任、再開等について（村田 満 理事長）

前回理事会 10 月 18 日以降の以下の委員会委員の追加、変更、退任等について提示され承認された。

- 1) 標準化委員会委員として村上正巳先生(群馬大)、チーム医療委員会委員として丸田秀夫先生(佐世保中央病院)を追加。
- 2) 利益相反委員会の近藤義彦氏(臨薬協)を、委員会の性格上必要なためアドバイザーから外部委員に変更。
- 3) 医療安全委員会委員の栗林景晶先生(札幌医大)が退会のため委員を退任。

日臨技からの要望により日臨技・JSLM 合同未来構想 WG について、当会の担当理事を小柴賢洋先生に、日臨技からの委員として戸塚実先生を追加したうえで活動再開することについては、活動内容として臨床検査に関する検討はよいが、それぞれの団体の目的が違うため学術集会等の検討は避けるべきとの意見があり、再度、趣旨を確認したうえで、活動再開することとなった。

2. 選挙管理委員会の設置について（村田 満 理事長）

平成 28・29 年度理事、監事改選のため役員の選出に関する細則により選挙管理委員会を設置するため、委員 5 名が提示され、監事 1 名と評議員経験者 1 名は問題ないが、その他 3 名については現理事であるため再検討することとなった。

3. 利益相反(COI)細則、各種申告書の最終案について(村田 満 理事長、諏訪部章 担当理事)

利益相反委員会で検討した細則、学術集会発表者並びに役員などの利益相反に関する自己申告書、編集委員会で検討した臨床病理誌の利益相反に関する自己申告書(案)が提示された。

細則に多少の文言の修正、申告書の一部確認、修正箇所は指摘され、それは修正をすること、細則については会則改定委員会で確認をすることを前提とし、2015年1月1日付の施行、実施することが承認された。

4. 学術集会あり方委員会答申案について(村田 満 理事長・担当理事)

10月18日の前回理事会で本答申案が報告されていたが、指摘されていたことを再検討した案が提示され以下のおりの方針となった。

- 1) 開催場所は、支部持ち回り制となっているが均等に回すのではなく会員(評議員数)に応じ、参加者の利便性を考慮して決定する。
- 2) 企業展示はJACLaSが大規模な企業展示をするため当会学術集会では開催しないが、会長判断での小規模な展示は開催可能とする。
- 3) 学会本部からの補助金については、当面500万円とし第62回学術集会から実施するが、不足する場合は理由を添え理事長に要望できることとする。
- 4) 学術集会の運営会社については、学術集会事務局の負担軽減のため、毎年変えるのではなく、3~5年間固定し、それに伴い補助金を廃止する方向で考える。

5. 評議員の再任について(2015/01/01付)(村田 満 理事長、担当理事)

2015年1月1日付再任の評議員対象者37名のうち、単位を満たした方30名、申請書未提出者6名、退任(辞任)者1名について再任申請状況が示され、理事会に先立って開催された審査委員会で、単位を満たした方30名は再任が認められ、申請書未提出者6名については申請書が提出され単位を満たせば再任を認めることが報告され、理事会においても承認された。

6. 臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたっての当会の考え方(更新)(村田 満 理事長)

評議員より新設される東北薬科大学医学部に臨床検査医学専任教授を置くよう、学会からの要望書送付の要望があったことをきっかけに、以前の臨床検査医学講座教授選考での考え方の文書を更新してHPに掲載し、また、講座のある大学に送付してはどうかとの提案があった。

これに対して、送付する場合は、その大学の状況、講座がない場合には設置を、教授が不在の場合には置くことをというように、その時期、文面を考慮したうえで送付したほうが効果的となった。

そして、医学部長・病院長会議宛に当会としての考え方、要望を送付して、すべての大学に当会の臨床検査医学講座教授選考にあたっての考え方を一律に知って頂くのが良いのではないかと、現在、当会議に出席している理事に効果的な送付の仕方の調査依頼がなされた。

7. 新専門医制度の進捗状況について(山田俊幸 総務理事・機構臨床検査領域委員代表)

日本専門医機構より専門医更新に関する補足説明が出され、2019年までが移行期間で現制度(学会専門医)と新制度(機構専門医)による更新の両者が認められること、更新は現在の5年のサイクルを踏襲し、機構専門医の前倒し講習はしないこと、これにより2017年度の研修開始時の指導医は機構専門医でなくても認められることになった。更新に求められる条件としては勤務実態の証明、診療実績の証明、講習受講の3点であり、更新単位は50単位とし、1) 診療実績の証明5~10単位、2) 専門医共通講習5~10単位うち3単位は必須講習、3) 診療領域別講習20~40単位、4) 学術業績・診療実績以外の活動実績0~10単位で単位数を決定することとなる。学会側としては専門医会と協力して更新に必要な講習を企画する必要がある。出席証明などの工夫も求められる。常任理事会では準備期間を考慮して2016年度から機構の専門医としての更新を開始する案としていたが、指導医の準備のためには2015年度の更新も想定する必要があるか、機構側に確認することになった。

8. 臨床検査専門分野別ネットワーク WG メンバー推薦依頼について（村田 満 理事長、佐守友博 日本臨床検査専門医会 会長）

日本臨床検査専門医会では、臨床検査の分野別に会員間で質疑応答ができるネットワークに加え、臨床検査に関する相談事例、地域の保健医療活動に臨床検査専門医として携わったことを記録することにより、臨床検査専門医の受験資格、更新時の単位証明にも使用可能と考え、共同での開発をしたいと、当会に参画、委員推薦依頼があった。これに対し、当会から土屋達行先生を委員として推薦し、参画することが承認された。

9. その他（村田満 理事長、山田俊幸 総務理事）

2015 年度理事会、定時社員総会日程について以下の通りの予定であること、そして、その他の主な会議等の予定について報告された。

理事会、定時社員総会日程

2015 年度第 1 回理事会 : 2015 年 3 月 28 日（土）12 : 00～15 : 50

2014 年度に係わる定時社員総会 : " 16 : 00～17 : 00

V 閉会の挨拶（副理事長）

前川真人副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

議事録署名人

杉浦 哲朗 

佐守 友博 